

氏 名	絲原 千映子
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第557号
学位授与年月日	令和3年3月15日
審 査 委 員	主査 教授 田島 義証
	副査 教授 磯部 威
	副査 教授 大野 智

論文審査の結果の要旨

現在本邦ではチーム医療によるがん治療が推奨されており、歯科医師や歯科衛生士は周術期口腔機能管理（POM）において重要な役割を果たしている。これまでに、口腔・咽頭や消化器系の悪性腫瘍治療においては、POMが術後合併症の予防と軽減に有効であることが報告されている。一方で、肺がん患者におけるPOMの有効性に関する報告はこれまでにほとんどなされていない。そこで本研究において申請者らは、肺がん患者の周術期における口腔内細菌数の動態を評価すると共に、口腔の健康状態と術後合併症としての発熱との関連性を検証することを目的とし、口腔細菌カウンターを用いた後方視的観察研究を実施した。2012年4月から2018年12月までに香川県立中央病院で肺がんと診断され、手術単独の治療が適応され、歯科口腔外科にてPOMを受けた全ての患者を対象とした。入院前、術前、術後の口腔内細菌数と口腔および全身状態に関する背景因子について診療録を遡って調査した。適格、除外基準に基づき441名（男性：276名、女性165名、年齢の中央値71.0歳）の患者が登録された。口腔内細菌数の動態について、経時的なデータを一元配置分散分析（ $p<0.001$ ）とBonferroniの多重比較検定によって解析した結果、入院前の口腔内細菌数（5.3）が手術前（4.6）と手術後（4.5）には有意に低下することが示された（ $p<0.001$ ）。一方、術後発熱のリスク因子の検索を目的として、Body Mass Index（BMI）に基づいた層別の多変量ロジスティック回帰分析では、歯数がBMI痩せ型（オッズ比：0.91 [95%信頼区間：0.82-1.02, $p=0.10$]）とBMI肥満型（オッズ比：0.96 [95%信頼区間：0.91-1.00, $p=0.06$]）の両方において術後発熱の独立したリスク因子として有意に関連していることが示された。本研究結果より、POMは肺がん患者の手術治療における周術期の口腔内細菌数を減少させることができること、BMIが痩せ型もしくは肥満型の者においては、歯数が少ないことが術後発熱のリスク因子であり得る可能性が明らかとなった。以上より、術後合併症としての発熱の予防には適切なPOM介入が重要である可能性が示唆された。今後のPOM管理の指標となる優れた研究成果であり、博士（医学）の学位授与に値すると判断した。